

令和6年2月1日

先月は、いろんな会社さんが集まる会合に参加することが多かったのですが、そのうちのとある会合に参加した際、私の方にチラチラと視線を送っていただく人がおられまして、私もその人の顔をどこかで見たような気がするなあと思っておりました。名刺交換をした記憶もないけどなあ、と。

会合が終わり、その人と名刺交換する機会ができたので、その名刺を見たのですが、社名を見てもピンときませんで、氏名の苗字を見たら、「あ、もしかして」という気になりました。その人とは一旦場所を離れてしまったのですが、私が追いかけて行って、尋ねました。「ひょっとして息子さんおられませんか」と。すると、戸惑うように「ええ、まあおりますけど」との回答。

「それはもしかして〇〇君では？」と言った瞬間に、その人は「アー!!」と全てがつながって理解したような表情をされたので、私も思わずその人とがっちり握手してしまいました。実はその人は、ウチの長女が保育園時代に同級生だった男の子のお父さんだったんですね。卒園式で一回会っただけだったので、顔を見てもすぐに思い出せなかったということです。

いやあ、ご縁というのは不思議で面白いものですね。

今回のご縁は待つて得たものでもありますが、最後は「もしかして」と思って声をかけたことがポイントになりますので、ご縁を引き寄せたとも言えます。

まあ、「息子さんおられませんか」と声をかけるなんて、傍から見たら変な人なんですけれども、「もしかして」と思ったら実行してみる、というのは結構大切な事だと感じました。

今月は社内の皆で集まる機会がありますが、こうやって集まるのは11年振りですね。これも一つのご縁だと思います。みんなで集まることでより多くの気づきや発見ができればいいなと思います。

以上

代表取締役社長 角高哲治